

再評価結果（平成19年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課
担当課長名：木村昌司

事業名 一般国道106号 <small>となんかわめ</small> 都南川目道路 <small>いわてけんもりあがしかわめだいいちぢわり</small> 起終点 自：岩手県盛岡市川目第一地割 <small>いわてけんもりあかしてしろもり</small> 至：岩手県盛岡市手代森	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省 東北地方整備局 延長 6.0km
事業概要 都南川目道路（自動車専用道路）は、宮古盛岡横断道路の一部を構成する延長6.0kmの一般国道のバイパスであり、盛岡地方生活圏と宮古地方生活圏の地域間交流に大きく寄与するものである。		
H9年度事業化 H13年度都市計画決定 H17年度用地着手 H18年度工事着手		
全体事業費 300億円 事業進捗率 10% 供用済延長 0km		
計画交通量 8,800台/日		
費用対効果分析結果 B/C：(事業全体) 1.3	総費用 ：(事業全体) 234億円 (事業費：229億円 維持管理費：5億円)	総便益 ：(事業全体) 304億円 (走行時間短縮便益：264億円 走行費用減少便益：24億円 交通事故減少便益：15億円)
基準年 ：平成18年		
感度分析の結果 ：事業全体について感度分析を実施 【事業全体】 交通量変動：B/C=1.4(交通量+10%) B/C=1.2(交通量-10%) 事業費変動：B/C=1.2(事業費+10%) B/C=1.4(事業費-10%) 事業期間変動：B/C=1.1(事業期間+20%) B/C=1.5(事業期間-20%)		
事業の効果等 ・国土・地域ネットワークの構築（地域高規格道路としての位置付け） ・災害への備え（現道が通行止めになった場合の代替路線を形成する） 他13項目に該当		
関係する地方公共団体等の意見 都南川目道路は地域高規格道路ネットワークを形成するとともに、現道の線形不良による交通隘路区間の解消等に重要な役割を果たすことが期待されており、盛岡市長をはじめとする首長で構成される国道106号地域高規格道路整備促進期成同盟会等から早期整備の要望を受けている。		
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 この事業の目的が失われるような道路交通状況の変化及び関連プロジェクト等の変更はない。		
事業の進捗状況、残事業の内容等 【執行済み額】事業費：30億（進捗率10%） うち用地費：3億（進捗率20%）		
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 岩手県施工の梁川道路との事業調整を行い、起点側は平成20年代前半、終点側は平成20年代後半の暫定2車線供用を目指す。		
施設の構造や工法の変更等 法面对策として新技術を活用し、経済性に優れた植生フレーム工法+鉄筋挿入工法を採用し、コスト削減を図る。等		
対応方針 事業継続		
対応方針決定の理由 以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。		
事業概要図		

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。